

見えない宇宙を、
見ていた。

「天の川」とは、いったい何でしょうか？ 古代ギリシャでは単なる星々の集まり、18世紀には望遠鏡の発達により円盤状の星の集団と推測されました。20世紀になると可視光以外の観測から三次元的な全体像が初めて解明され、最近では中心部に巨大なブラックホールの存在も明らかに。科学者たちは天の川に魅せられ、想像をめぐらせ、未知の扉を一つひとつ開いてきたのです。五藤光学研究所のハイブリッド・プラネタリウム“ケイロンⅢ”は、1億個を超える微恒星で天の川を緻密に描き、見たまま感じたままの美しい星空を再現。さらに高精細デジタル映像と組み合わせることで、これまで見られなかった最新の観測結果による宇宙の姿まで体感できます。美しく謎を秘めた星空は、想像力をかき立てる宝庫。最先端のプラネタリウムが、想像のその先に待つ壮大な夢を広げていきます。



©ALMA (ESO/NAOJ/NRAO). W.Garnier (ALMA)

◀南米チリのアルマ望遠鏡
世界最大級の電波望遠鏡。
天の川の中心やブラックホールの姿を明らかにするなど、
天文学の最前線で観測を続けています。



天の川の姿は
こちらから

*「ケイロンⅢ」の星空
(府中市郷土の森博物館で撮影)



株式会社 五藤光学研究所
〒183-8530 東京都府中市矢崎町4-16 ☎042(362)5311
<https://www.goto.co.jp/>